

## No. 1 原因と再発防止対策の例

	原因	再発防止対策
人的	水分と塩分の摂取が不足していた。	のどの渇きに関する自覚症状の有無にかかわらず、水分と塩分の定期的な摂取を行う。
設備的	作業場所は日陰を設けることができず炎天下であった。	暑さ指数 (WBGT) が高い暑熱環境下で作業を行う場合には、送風設備の設置、身体を冷却する機能をもつ服の着用、作業開始前・休憩時間中のプレクーリングを行う。
作業的	朝から継続して作業強度の高い作業を行っていたため、疲労が蓄積していた。	あらかじめ定める WBGT 基準値と、作業場所の暑さ指数 (WBGT) の結果を評価し、最低でも 1 時間当たり 15 分以上の休憩をとる。また、WBGT 基準値を大幅に超える場合には作業中止を検討する。
管理的	職長の体調確認と判断および元請への連絡が遅かった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 熱中症の発症は個人差があることから、事前に健康診断結果を把握するとともに、健康 KY により当日の健康状態を確認する。また、現場巡視を頻繁に行い、作業中の労働者の健康状態を確認する。</li> <li>● 本人や周りの人が少しでも異常を感じた場合には、病院への搬送や救急隊の要請を行う。</li> </ul>